

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570200636
法人名	医療法人 与州会
事業所名	グループホーム ウエルネス
所在地	宮崎県都城市上東町26街区11号 (電 話) 0986-24-0167
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年5月30日

【情報提供票より】(20年 5月 15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 8 月 30 日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤	0 人, 常勤換算 16人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート耐火建築 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~38,000円	その他の経費(月額)	円
敷 金	☒ 有(100,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ☒ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(5月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	12 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 74 歳	最高 95 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 与州会 柳田クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

都城市内の郊外ではあるが、周りには学校や商店などが立ち並び、住宅街のにぎやかな町に静かにホームは溶け込んでいる。更に法人内の併設の老人保健施設や訪問看護ステーションもほど近いところに位置する。ホームは地域の自治会に加入しており、地域行事にも積極的に参加することでホームの存在感をアピールし、地域貢献を試みている。ホームの利用者はそれぞれが居心地のいい場所で自由気ままに自分のペースで生活している。ゆっくりと流れている時のほざまで、職員と利用者のゆったりした会話や笑い声がはじけている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	ホームの多機能性を活かした取り組みについては、通院等や外出時の送迎や外泊の際の支援などを実施している。入浴については、毎日入浴したいという利用者には、そのニーズに応えられるような取り組みをしており、今後も多様なニーズがあれば応えていくための準備はできている。また災害対策についての避難訓練はよくできているが、さらに地域住民の協力を得て、訓練への参加や見学など行ってほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、管理者以外の職員もその内容について把握できており、ミーティング等の職員全体会議で協議しながら検討されている。その改善点についても協議がなされている。また外部評価についてもその意義を職員全体が理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎の会議がなされ、その内容についても外部評価や改善点の内容などの報告、または利用者や外部の意見についての検討などがなされており、その内容も詳細に記録してある。またホームの支援の状況など詳細に会議で報告され、委員からも活発な意見が出ていることが確認できた。メンバーの協力を得て、地域にホームの紹介や認知症についての広報活動にも取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時には利用者についての報告は欠かさずに行い、書面での報告もできている。また預り金の出納報告も家族の確認がある。ヒヤリハットや事故報告も必ず行っている。以前は家族アンケートによる意見集約を行っていたが、現在家族と直接話をして意見を引き出すようにしている。また意見や苦情については意見箱設置のほかには職員と家族のコミュニケーションの中で引き出す工夫がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎年行われる秋祭りの作品出展や保育園との交流など、地域とのふれあい活動を行っており、自治会に加入して地域行事などへの参加もしている。地域交流については運営推進会議にて報告がなされ、ホーム便りなどに掲載してある。今年からは「地区との交流会行事」を年間計画の中に示しており、実施する予定である。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、法人全体の理念を大きく掲げ、その理念に沿ってホームの介護理念をつくっている。その理念は利用者の尊厳を謳い、家庭的な環境の中での支援を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日行われるミーティングで、理念に沿った支援ができているか確認の作業をしている。またできていないことについては、できることについての提案を職員同士で提起するなどの取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年行われる秋祭りの作品出展や保育園との交流など、地域とのふれあい活動を行っており、自治会に加入して地域行事や清掃活動などへの参加もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、ミーティング等で職員全体で協議しながら検討し、改善点についての協議もなされている。また外部評価についてもその意義を職員全体が理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎の会議がなされ、その内容についても外部評価や改善点の内容などの報告、または利用者や外部の意見についての検討などがなされており、その内容も詳細に記録してある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	特に管理者が市の担当者との連携や連絡を図っており、市の研修会などへの参加もできている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時には利用者の報告が必ずなされ、文書での報告もできている。また預かり金の出納報告は家族の確認のサインを徴してある。職員の異動等についても、便りまたは口頭による報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ヒヤリハットや事故報告は必ず行っている。以前は家族アンケートによる意見集約を行っていたが、現在家族と直接話をして意見を引き出すようにしている。また意見や苦情については、意見箱設置のほかに職員と家族のコミュニケーションの中で引き出す工夫がなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者支援には、職員全員が2ユニットのケアのためのローテーションを組んで、利用者全体の把握とユニットの異動の際の混乱がないようにしている。また職員異動については、家族や利用者に事前に報告したり、便りで知らせている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加もあり、その報告書も確認できた。しかし重度化している利用者支援のための研修など、内外部の研修が少なく、職員全員が参加できるような計画的な研修が行われていない。	○	法人の併設事業所との連携の中で、参考になることについては職員全員がさまざまな内外部の研修に参加できるような計画ができるように期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南ブロックのグループホーム連絡協議会には定期的に参加している。また他の同業者との連携の中での情報交換も行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	これまでも利用に対して不安のある入居希望者には、短期間の体験入所などをしてもらい、本人が納得した上でサービス利用を開始するなどの配慮をおこなっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が歩んできた人生を知り、その人なりの境遇に寄り添いながら、信頼関係作りを行っている。また職員は、利用者本人から学べることは真摯に受け入れて共に生活していくための取り組みを実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや主訴は、ケアプランにも反映され、特に外出などについては、本人の意向に沿うようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の策定や見直し、カンファレンスによる検討など、職員の役割分担の中で、全体で協議されて見直しが行なわれている。またカンファレンスは本人や家族の参加が必ずできている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは毎月行われ、月まとめの記録がある。またその結果に即したプランの策定になっているモニタリング等を見直しのための一覧表ができており、職員誰もが確認できるようにしてある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診や外出の送迎や付き添いなど、利用者や家族のニーズに合わせた支援ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の併設医療機関だけでなく、利用者本人の主治医への受診などの連携や支援ができています。また他科受診についても同様にできています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、利用者や家族がホームでの終末を望めば、同じホームの家族としての看取りをしていくという経営者の方針である。またこれまでも一件そのような例はあった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の写真や表札の掲示については、本人や家族の同意を得るようにしてある。またその他の個人の情報の管理については同意書を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的な利用者の生活は、利用者のペースで進められ、日課に拘束されるような支援ではない。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事介助が必要な利用者には、話しかけながら介助し、そして職員も利用者と同じ食事を食べながら、他の利用者にもさりげない見守りや介助をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	これまでも毎日入浴したいという利用者には、そのニーズに応えられるような取り組みをしてきた。今後も多様なニーズがあれば応えていくための準備はできている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個別に、洗濯物の取り入れやたたみ方、あるいは床の清掃など、できることは役割を持たせて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度の利用者も、併設の老健のリフト車を借りて、車椅子のまま外出支援をしたり、買い物などの利用者の希望に沿った外出の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は常にオープンにしてあり、自由に行き来することが可能である。居室も施錠できるようになっているが、職員が施錠するようなことはない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の避難訓練は、消防署の立会いで年2回実施している。また職員全員参加でありその計画書や記録、消防署の確認のための書類もある。ただ、地域住民の参加がない。	○	非常時の緊急連絡網の中に、地域の自治会代表者も含まれており、避難訓練はよくできているが、地域住民や自治会の参加ができていないので、地域住民の協力や訓練への参加や見学などができるように期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員とが利用者の希望も取り入れて作っており、併設老健の栄養士のアドバイスももらっている。また健康面に配慮すべき利用者は、医師の指示や指導を仰ぎ、食事形態も個別にかゆ、刻み、ミキサー、トロミなどの嚥下困難者への対応をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームは全体的に明るく、換気や風通しも良好である。また共有空間も利用者が自由にできるスペースが大きく、浴室やトイレなども手すり等の設置がなされている。ただ、台所や浴室には、利用者が手の届く位置に様々な薬剤が置かれている。	○	ホーム全体がオープンスペースになっており、浴室や洗濯室なども施錠ができないようになっている。ただ台所や浴室は利用者が自由に行き来でき、ハイターやムトウハップなどの薬剤が、利用者の手の届く位置に置かれてあるので、事故防止のために保管場所の検討をしてほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、仏壇やタンスなどの個人のものがそれぞれ持ち込まれてあり、家族の写真、カレンダー、時計など、利用者が必要とするものも置かれてある。その人の個性が表れている居室になっている。		